

奥本さんありがとう!!

Thank you!

奥本さんはコスモスで12年半働いて下さいました。優しく気遣いのある訪問看護師として、多くの利用者さんやスタッフに慕われてきました。

日常生活の整わないAさんには体調管理は勿論のこと、清潔保持、服薬管理、衣服の購入、旅行の日程調整等々。不安の強いBさんには居住場所を心配し、真っ先にコスモスアパートへの入居を勧めました。また終末期の利用者さんの気持ちに寄り添い、家族にも丁寧に療養生活の説明を重ね信頼を得ていました。

一方、コスモスのイベントではフラダンス、三味線、農場の世話と活躍、いつでも笑顔を抱やしませんでした。

この度、故郷に帰られることになりましたが、コスモスで培われた何にも負けない底力と笑顔で故郷の皆さんの元気を応援して下さい。

奥本さん長い間お疲れ様、そしてありがとう!! (山下真実子)



本田可奈子さん & たけるくん いらっしゃい



コスモスを退職されコスタリカに移住されていた本田可奈子(旧姓:越藤)さんご一家が、無事に日本に帰国されました。赤ちゃんだった文(たける)くんは、1歳4か月に! これからもお元気で!

コスモス新聞

2018年初夏 59号

4月3日、山谷堀公園で、毎年恒例のコスモスお花見会が開催されました。今年は例年より桜の開花が早く、華桜が暮らう中での会となりましたが、そこはコスモス… 三味線やフラダンス等、次々と楽しい宴が催され、皆さんの笑顔がたくさん花開きました。今年もこうして、みんなで桜を見られたことに感謝です。来年もまた、みんなで桜を見られますように…



4/3 山谷堀公園にて

地域ケア連携をすすめる会

シンポジウム参加

大前浩

地域連携をすすめる会主催「生活支援のモデルと実践 山谷での実践の整理」第7回シンポジウムが福祉プラザ台東にて開催されました。地域を支える各NPO団体の支援活動の内容や意義などを発表し「訪問看護ステーションコスモス」もパネリストとして参加させて頂きました。特に印象に残ったのはパネル発表後に行われた「グループディスカッション」の光景でした。医師、看護師、各支援

団体、学識者、福祉行政に関わる方、ジャーナリスト等、幅広い層の方が訪れる各テーブルでは活発な意見が交わされその様子はまるで市民会議のようでした。また、この喧騒は関心への高さを象徴するものでした。会場では名刺を手に話しうなずく人、驚いて笑顔で握手する人、シンポジウムを通じて新しい繋がりがや出会いもあり改めて地域で支える人達の集まりであったことを実感しました。

コスモスハウス おはな通信

おはなにいらっしゃ〜い

出身地と趣味をきいてみました。みなさん、それぞれのペースで慣れていってくださいね。



阿部光正さん
出身地…福島県
趣味…野球(横浜ベイスターズ)相撲観戦、カラオケ、散歩。

アパートに移られてもご飯を食べてくださいな、飯内



太田博也さん
出身地…栃木県
趣味…歌謡曲、演歌を聴くこと、歌うこと。



Sさん
出身地…東京都
趣味…サイクリング、パソコン。



飯野一男さん
出身地…茨城県
趣味…野球観戦(ジャイアンツ)、ワールドニュースを観ること。

第59号 2018年6月

本部 〒111-0021 東京都台東区日本堤1-12-6 訪問看護ステーションコスモス
事務所 ☎ 03-3871-7228 FAX 03-3871-7229

URL <http://www.s-cosmos.org/> E-MAIL s.cosmos@cosmos.ocn.ne.jp

発行責任者: 山下真実子 編集委員: 関口・渡邊・織田
《編集後記》梅雨空に紫陽花が映える季節になりました。今季は、お別れの方が多く、淋しい思いです。しかし、大変だった事ほど今になって笑えたりするので不思議です。これからも様々な出会いをさせていただくのだと梅雨の晴れ間の青空に思いを馳せております。(関口)

ご寄附をありがとうございます

杉山みち枝様
婦人之友社「明日の友」様
伊藤まこと様
小岡淑子様
高橋慶通商店様
小澤元美様
マゼリー・エフ様

「この間、コスモス」コスモスハウスにおはな通信に、多くの方から利用されている方を私達に紹介して下さり、大変有難く心温まるご支援です。この場を借りて、深くお礼申し上げます。

皆様の「ご寄附」を心掛けています
下着・衣類・靴・石けん
タオル・生活用品等
スーパーレジ袋等

デイサービスの一日



午後のレク活動から〜昼まで〜
1月に初場所を行って以来、4か月ぶりの5月場所が開催されました。今回も力士作りから始まる。そして、命名したしこ名に期待を込めて、取り組みが開始!



「そんなに強くないよ」と謙虚な態度をしながら秘かに闘志があったり、普段と目の色が違う人がいます。普段レクにあまり参加しない人が2回戦まで対戦したり、ガックリしたり、イヤがったり、喜んで、自分が負けた後も自陣の勝った力士に歓声があったり…。3日間で3人の横綱が生まれました。その熱気は大相撲への前哨戦となり、4日後に両国で始まる夏場所へと…続いたかな?

コスモス総会

5月25日、総会が開かれました。すべての議案が承認され、無事に終了。また、長年理事を務めた本田医師に代わり、新たな理事も決まりました。総会後の懇親会は賑やかな会となりました。



未知との遭遇

東 幸子

昨年韓国にて初めての食材に出あった。見た目と食感は野菜(のふき)、味は塩と胡麻油でいつもの韓国のおかず味でうまい。これはなんていう野菜? と聞いてみたところ、コグマチュルギよ、との返答、コグマは韓国語でサツマイモのこと、チュルギってなんだ? その疑問の答えは市場にあった。正体はサツマイモの葉の茎だった。葉のようにスジを取って下ゆでして蒸したり炒めたりして食べるとのこと。秋なのに葉があるわけがないよ、との謎が解けた。サツマイモの葉ならコスモスの星ジョーにたわなに返っている。自分にもできるかな、と星ジョーにてサツマイモの葉っぱをもいでみた。だがしかし、韓国で見たような太くてしっかりした茎ではないような…。送っているうちに収穫祭を迎え、葉は刈り取られイモは蒸してみんなであいらげってしまった。昨年の秋のことだ。やがて野菜のコンテナは土だけになり、雪が積もったり春をすっ飛ばして急に暑くなったり逆に急に寒くなったりと不安定な気候の中、星ジョー係は苗を植えた。原上からはカラスが威嚇してくる。冬を越したスナッフエンドウは実り豊かで毎日昼食に上っている(といってもひとり一個位だが)。今年ほどの位手作りの野菜が口に入るのかな、数年前みたいに自然発生のスイカなんて芽を出さないかな、などと思いをよせながら、気持ちちは早くも秋のサツマイモの葉の茎にある。もしかしたら、今年未知との遭遇の食材が皆様の口に入るかもしれないよ、フフフ。

サツマイモのツル!! 懐かしい~!

東ティモールではフェフックティキンと呼ばれ、私もよく食べていました。炒めて多めの水を入れて、スープみたいな感じで…季節ものなので、楽しみにしていたのを覚えています。

渡邊



訪問看護の現場から

田崎さん 追悼

石川万里子

コスモアパートで暮らされ2018年3月に田崎さんは亡くなりました(寂しい)。生霊の約束通り私も田崎さんの最期の時に立ち会うことが出来ました。出会いは18年前になります。糖尿病の方に空揚げや砂糖入りのコーヒーが大好きでした。血糖値は800以上、食事療法など関心なし。「腹が空いているからしょうがないだろう!」「いっぱい食べろ!」などと、いつも大声で言っていました。しかし、突然はクマのプーさんみたいで可愛いらしかったです。東日本大震災の時は入浴介助中でした。忘れもしない、風呂がひっくり返るような揺れ。「田崎さんと二人で

死にたくはないわね」と言う。「なんだよ」と笑いながら話していました。心優しいところもあり、地震のテレビ報道を見ながら心配していました。何回も脳梗塞で入院して、そのたびに体は不自由になりベッドでの生活を余儀なくされ、毎日携帯電話を顔周りにかけて当番のスタッフやヘルパーさんに迷惑をかけました。壁には怒鳴ったりしていましたが、私には決して怒ることはありませんでした(怖かったのかな)。ヘビースモーカーでしたが、私には気を遣い訪問の間は吸いませんでした。寝たきりになり車も乗れなくなり、少しずつ体力も落ちてきました。元気でしたが、まさかのがん発症。永眠までの時間は

僅かでした。痛みで苦しんだ日が少なかったのが幸いです。穏やかに亡くなられたことが私の心の救いです。あの世で山食べてくださいな。



イスラエルへ…! Go to Israel 渡邊 怜子

3月、私にとって未知の国イスラエルへ行ってきました。報道ではネガティブなイメージが前面にでているイスラエル。日本で勉強会に行ってもよく解らない社会問題。本当は、どんなところなのか…? 未知への好奇心と、イスラエルで起こっていることをこの目で見たいという気持ちで9日間のスタディツアーに参加しました。基礎がなさすぎて何をどれくらい吸収できたかわかりませんが、とにかく、毎日新しいことを学び、きれいな花や景色を見て、多くの遺跡に足を運び、現地のご飯を食べ、異文化の中で生きる人々と出会いました。エルサレムの旧市街やメラシエームでは映画の世界に足を踏み入れたようでドキドキワクワク!! 時間も空間も分からなくなるような不思議な世界が広がっていました。世界最古、そして世界で一番低いところにある街と言われるエリコは今回行くことが出来た数少ないパレスチナ自治区。エリコからは、死海を見渡しました。ガリラヤで歩いていた時に「Welcome to Palestine!」と叫ばれ、イスラエルとパレスチナのこと、日本で人の話を聴くよりもずっとストレートに肌で感じる事ができました。もちろん、問題は複雑でスッキリ理解しようなんていうほうがおかしいということも。

行く前は、二度と行くことはないだろうと思っていたイスラエルですが、今回行けなかったところやもう一度行きたいところが……。いつかもう一度、行ってみたいです。

林和典様との思い出

ヘルパーステーションハーモニー 山田友和

ハーモニーに就職してまもなく、一日に何軒も訪問し、ひとりひとりの名前や顔が全く覚えられずに不安や緊張、気持ちの焦りが日々ある中で、一件だけスッと頭に入ったのが林さんでした。その姿は、胸ぐらにある傷、肩まで伸びた髪をオールバックにして水泳帽を被り、仙人様みたいでした。

山田(以下、僕)「ねえ、なんで部屋の中で水泳帽を被るんですか」
林さん(以下、林)「壁の叩く音の面倒くさい、愛じゃまだから被ってる」
僕「だとしたら、もっと巨かに帽子あったでしょ!」
林「風呂行ったらこれしかなかった」
僕「えっ、帽子買うのに、薬局行く?」
林「近いから」
実は、林さんと話をすればするほど初めて聞いた話に聞こえず、いつしか違和感を覚えるようになってきました。

ある日、書類に名簿を書いたら時に思い出しました。ゆっくゆっく時間をかけて丁寧に名前を書き姿と女性みたいな字…10年頃にパチンコ屋の掃除で一緒に働いたことがあったのです。そのことを林さんに伝えると覚えてはいたのですが怒り出し、「あまりいい思い出ではないので誰にも

言うな!!」と。(まあ、確かに、書けない…) さてさて、これがまたサービスが成立しない。腹案、嘗試、入浴、掃除、買物代行すべて拒否されたのは彼にも僕にも林さんだけです。自分で風呂へ行くから入浴しない。掃除は食器の若い衆がやりに来る。洗濯はゴミ袋3つ溜まったらやる。票飲むとクワラして競馬の予想が外れるから飲まない…などなど。いろいろな理由をつけて仕事をさせてもらえない。それに追い打ちをかけるかの様に、心の病気が発症して、あんちゃんは鬱鬱だ!! 洋服、靴、金をすべて持っていったと怒り出す始末。さりげなく話を通らせば落ち着くのですが、林さんはメモ帳を何枚も使っては「盗まれたもの」をしっかりと書いていたのでまた思い出す。やぶっても、また書いたメモがテーブルや冷蔵庫の上、財布の中など、どこかしらから出てきては、また怒る。そして怒りながらも「明日、コーヒー飲みに来い」と言う。結局、サービス成立するまでに5年ほどの時間が経っていました。

ちょっと誰に左足を骨折してしまった僕は仕事が出来なくなりましたが、林さんのケアだけは車イスや排泄袋などを使ってどうにか訪問し、入浴介助など行っていたのに… 重たくなるかもしれないのにケアに入れない。見るのも辛いし。死を考えてしまうと怖い。仕事だけどうやりたくない、いろんな葛藤がある中で、林さんから出た「お墓に布団をかけてもしょうがない。今ががんばれ!」の言葉が思い出され、「まさに今じゃん」と思い、自分の出来ることすべてを行い看取らせていただきました。

長いような短いような7年のお付き合いはとても楽しいものでした。もっといろんなことを教えてほしかったし、もっと相談に乗ってほしかったし、僕の人生の道しるべになってほしかったです。僕にとって林さんはお父さんのような、おじいちゃんのような、友達のような、宿場の上司のような、気さくな、変な人でした。



【突然の脳内出血】

いつか来るとは分かっていましたが、昨日まで元気になっていたのに今日来たか、いくら声掛けしても反応なし。林さんの顔を見ると涙が止まらない。目にグッと力を入れても涙のように流れて仕事にならない。現実が受け入れられなくて、ケアを代わってもらっていました。



東日本大震災7周年 報告会に参加して 鶴澤 喜恵子

3月11日東北地方を襲った東日本大震災から7年が経過しようとしています。今回被災地にて継続的に活動をされているプロジェクトKの方々の「気仙沼の人々はどうか試練に向き合い、立ち直ってきたか?」をテーマにした活動報告会に参加させていただきました。様々な課題を抱えながらも復興にむけて地域住民の方々のたくましさを感じることができました。私達も決して忘れてはいけない事を実感した充実した会でした。赤ちゃんをおんぶしている看護師は以前コスモスで働いていた美和ちゃん。地元の方と結婚し、今では立派なお母さんです。

